

令和四年度 お茶の水女子大学 文教育学部
学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜
高大連携特別選抜 試験問題 人文科学科

※哲学・倫理学・美術史プログラムを志望する者は、【問題1】を、
比較歴史学プログラムを志望する者は、【問題2】を、
地理環境学プログラムを志望する者は、【問題3】を、
それぞれ解答しなさい。

令和四年度 お茶の水女子大学

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題

文教育学部 人文科学科（哲学・倫理学・美術史）小論文

【問題1】

次の文章を読んで、問い合わせなさい。

およそこれまで存在した古今東西のあらゆる民族と共同体において、カミをもたないものはなかつた。信仰の有無にかかわらず、大方の人にとってカミはなくてはならない存在なのである。

わたしたちが大切にする愛情や信頼も実際に目にすることはできない。人生のストーリーは可視の世界、生の世界だけでは完結しない。たとえそれが幻想であつても、大多数の人間は不可視の存在を取り込んだ、生死の双方の世界を貫くストーリーを必要としている。

かつて人々は神仏や死者を大切な仲間として扱つた。目に見えぬものに対する強いアリティが共同体のあり方を規定していた。それゆえ、わたしたちが前近代の国家や社会を考察しようとする場合、その構成要素として人間を視野に入れるだけでは不十分である。人を主役とする従来の欧米中心の「公共圏」に関わる議論を超えて、人と人間を超える存在が、いかなる関係をもちながら公共空間を作り上げているかを明らかにできるかどうかが重要なポイントとなる。これまでの歴史学の主流をなしていた人間による「神仏の利用」という観点を超えて、人とカミが密接に関わり合つて共存する前近代世界のコスモロジーの奥深くに錘鉛を下ろし、その構造に光を当てていくことが求められているのである。

いま日本列島においても世界の各地でも、現実社会のなかに再度カミを引き戻し、実際に機能させようとする試みが始まっているようにみえる。二〇一三年秋、わたしは「介護と看取り」をテーマとするシンポジウムに参加するため北京を訪れた。終了後に、中国のホスピスの現状をみていただくために万明医院という病院を訪問し、スタッフと懇談する機会をもつことができた。

万明医院では病院の内部に、「往生堂」という名称の一室が設けられ、重篤な病状に陥つた患者がそこに運ばれて、親族の介護を受けながら念仏の声に送られてあの世に旅立つシステムが作り上げられていた。敷地内の別の一室では、故人の遺体を前に、僧侶を導師としてたくさんの人々が念仏を称えていた。その儀式は数日間続けられるという。靈安室と死者の退出口を人目のつかない所に設けることによって、生と死の空間を截然と区別する日本の病院を見慣れていたわたしにとって、病院内に生の世界と死の世界が混在するこの光景は、たいへん衝撃的だった。

終末期医療や心のケアに宗教を介在させようとする動きは日本でも起きている。その代表的な運動が、東北大学をはじめ多くの大学で進められている臨床宗教教師の育成である。「臨床宗教師」は、キリスト教文化圏における^註チャヤプレンに相当する存在で、「被災地や医療機関、福祉施設などの公共空間で心のケアを提供する宗教者」をいう。その育成講座には、仏教、キリスト教、神道、新宗教などさまざまな信仰者が参加している。

宗教者であることが基本的な資格であるが、自宗の優位を公言したり布教や伝道行為を行つたりすることは禁止されている。宗教者としての経験を生かし、相手の価値観を尊重しながら、みずから病や親族の死などによつて心に重荷を負つた人々に寄り添い、看取りやグリーフケアを行うことを任務とするものである。東北大学病院緩和ケア病棟など、国公立の病院でも臨床宗教師の採用が進められている。

日本でも中国でも、現代医療の方に対する反省に立つて、医療の現場にカミを導入しようとする活動が始まっている。最先端の科学技術が君臨する場において目に見えぬものたちがどのような役割を果たしうるのか、今後の動向が注目される。

息の詰まるような人間関係の緩衝材として、新たに小さな力ミを生み出そうとする動きも盛んである。一九九〇年代から始まるスピリチュアリティや精神世界の探求のブームは、そうした指向性の先に生まれたものだった。ペツトブームもまた人間関係の緩衝材を求める人々の無意識の反映と考えられる。

もう一つ、わたしがいまの日本社会で注目したい現象は、列島のあらゆる場所で増殖を続けるゆるキャラである。もちろんディズニーのミッキーマウスをはじめ、動植物を擬人化したキャラクターは世界中にみられる。しかし、その数と活動量において、日本のキャラクターは群を抜いている。これほど密度の濃いキャラクター、ゆるキャラの群生地は、地球上の他の地域には存在しない。

大量のゆるキャラが誕生しているということは、それを求める社会的需要があるからにほかならない。それはなにか。わたしは現代社会の息の詰まるような人間関係のクツジョンであり、ストレスの重圧に折れそうになる心の癒やしだと考へている。

ミッキーとハグしたくて、震災後再開したディズニーランドを真っ先に訪れたという類の話はいくらでも存在する。精神的に追い詰められたときでも、他人に心を開き甘えることは容易ではない。しかし、ゆるキャラに抱きつくことならさほど抵抗はない。ゆるキャラとの出会いが、心に溜まつた澱を一举に昇華するカタルシスとなるケースもあるのである。

現代社会におけるゆるキャラは、小さな力ミを創生しようとする試みであるとわたしは考へている。この社会から力ミを締め出した現代人は、みずからを取り巻く無機質な光景におののいて、その隙間を埋める新たな力ミを求めた。その先に生まってきたものが、無数のキャラクターたちだた。^(エ) 群生する大量のゆるキャラは、精神の負荷に堪えかねている現代人の悲鳴なのである。

歐米諸国と比べれば、日本列島はいまだに自然と力ミと人との連続性、対称性を強く保持する社会である。かつて死者が風になつて空中を飛翔する「千の風になつて」という歌が大ヒットした。道端には何を祀るとも知れない無数の祠があり、野の花が生けられている。都市のここかしこに神社や祠が残つていて、祈りを捧げる人の姿がある。

東日本の各地にある草木供養塔は、山仕事を行う人々が伐採した草木を供養するために建立したものであり、針供養の行事などとともに、人間と草木・無生物を同じレベルの存在として把握しようとする日本人の発想方法を反映する現象である。しかし、その日本でも力ミは着実に存在感を弱めつつある。

二世紀に生きるわたしたちは、近代の草創期に思想家たちが思い描いたような、直線的な進化の果てに生み出された理想社会にいるのではない。近代化は人類にかつてない物質的な繁栄をもたらす一方で、人間の心に、昔の人が想像もしえなかつたような無機質な領域を創り出した。民族差別の言説や弱者への罵倒の言葉が、いまネット上に溢れている。

この問題の深刻さは、すでに述べた通り、それが文明の進化に伴つて浮上したものだということにある。いまそこにある危機が近代化の深まりのなかで顕在化したものであれば、人間中心の近代ヒューマニズムを相対化できる長いスパンのなかで、文化や文明のあり方を再考していくことが必要である。

わたしは前近代に歸れ、といつてはいるのではない。過去に理想社会が実在した、などといつてはいるのでもない。

どの時代を切り取つても、苦惱と怨嗟^{えんざ}の声はあつた。いまわたしたちが生きる世界を見直すために、^(エ) 近代を遙かに超える長い射程のなかで、現代社会の歪みを照射していくことの重要性を論じているのである。

これまでの歴史のなかで、力ミは人にとってプラスの役割だけを果たしてきたわけではない。力ミが人を支配する時代が長く続いた。特定の人々に拭いがたい「ケガレ」のレッテルを貼つて差別を助長したのも力ミだつた。力ミの名のもとに憎悪が煽られ、無数の人々が惨殺されるという愚行が繰り返されてきた。それはいまも続いている。人類が直面している危機を直視しながら、人類が千年単位で蓄積してきた知恵を、近代化によつて失われたものをも含めて発掘していくこと、それこそがいまわたしたちに与えられている大切な課題なのではないだろうか。

註

チャップレン 病院や軍隊など教会外の施設で働く聖職者

問一 傍線部（ア）とありますが、筆者はゆるキャラが必要とされる理由をどのように分析しているか、三百字以内でまとめなさい。

問二 傍線部（イ）の指摘を受けて、筆者が「カミ」と呼んでいるものを私たちは今後も必要とし続けるのかどうか、仮にそうだとすればどのような形が考えられるか、あなたの考えを六百字以内で論じなさい。

令和四年度 お茶の水女子大学

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題

文教育学部 人文科学科（比較歴史学）小論文

【問題2】次の文章を読み、問一、問二に答えなさい。

前に向かつて歩くわれわれは、通常、過去を後ろに、未来を前に感じ取る。積極的な未来志向を「前向き」の態度と呼び、「後ろ向き」がその逆の態度を表すように、言語表現においてもおおむね背後を過去に、前方を未来に対応させているようみえる。ところが、時間の前後関係においては、それとは反対に、現在を視点にすれば、過去がマエ、未来がアトと表現される。視点を過去のあるいは未来の一時点に移しても、その時点までに起こっていることにはマエを、それ以後の事象にはアトを用いている。つまり、表現の上では、発話者の前方に過去の時間が重なり、後方に未来の時間が連なっているかのようなのだ。なぜ、空間的なマエが過ぎ去った時を示し、アトが未来を意味することになるのか。

（中略）

人間は時間の経過そのものを見ることはできない。見えるのは、空間における事象の動きであり、変化である。それゆえ、時間の経過が空間概念（長・短、遠・近）や運動概念（遅・速）で言語表現されること自体は何ら不思議ではない。だが、それでも、系統の異なる言語が共通して、時間的な過去を空間における「前」に、未来を「後」に対応させるのはなぜであろうか。これについて、リドル・スコットの『希英辞典』（一九六八年版、一二三九頁）には、空間的に「背後に」を意味するギリシア語の副詞オピソー（οπίσω）が「未来に」を意味する時間的用法に関して、「過去はわれわれの眼前に知られているのに対して、未来は見ることができないがゆえに、われわれの〈背後にある〉とみなされた」と説明されている。つまり、過去は既知ゆえに眼前の事柄として、未来は未知ゆえに背後の事柄として表現されたというのだ。眼前を既知、背後を未知とする、いさきか単純に過ぎる言語心理学的な説明の可否はここでは問うまい。ただ、たとえばアフリカ人の時間意識を論じたケニア出身のJ・S・ムビティの次のような言葉に触れるとき、過去をマエと表現するわれわれ祖先たちもまた、かつては、〈過去〉を向いて生きていたのではなかつたか、と思わされるのである。

西洋人の時間の観念は直線的で、無期限の過去と、現在と、無限の未来とをもつてゐるが、アフリカ人の考え方には実際上ないものないものである。未来は事実上存在しない。未来の出来事は起こっていないし、実現していないのだから、時間を構成しないのである。（中略）現に起こっていることがらはもちろん未来をひらくけれども、ある出来事がひとたび起こってしまえば、もはやそのことは未来ではなく、現在と過去に属するのである。だから〈現実の時間〉とは、現在のものと過去のものである。時間は「進む」というよりもむしろ「退く」ものであり、人びとは未来のことを思はず、すでに起こつたことがらを思うのである。

もし、過ぎ去つた出来事をマエノコトと言い表すわれわれの言語習慣が、われわれの先祖たちのこうした時間感覚を*揺曳しているとすれば、過去をマエと言ふことの奇妙さの原因は、むしろ、過去から現在を経て未来に直進する直線的時間観のもとで未来を指向するようになつたわれわれ自身に求められねばならないだろう。この直線的時間観はおそらく西欧の近代社会の形成と共に立ち現れできたものであり、数量性と不可逆的な直進性をその特質とする。そして、この直線的時間観の淵源は、多くの識者が多少のニュアンスを変えながら指摘するように、キリスト教からさらくヘブライズムに遡るといわれるのだ。

出典：月本昭男「歴史と時間」（『歴史を問う2 歴史と時間』岩波書店 二〇〇一年）。引用にあたり、省略・改変したところがある。

* 摆曳（ようえい）：ゆらゆらとゆれてなびくこと。響きなどがあとに長く尾をひくこと。また、雰囲気や感情などがあとまで長く残ること。

問一 傍線部「過去をマエと言ひ表すことの奇妙さ」はどういうことか。本文の内容に即して、二〇〇字以内で説明しなさい。

問一 本論では、西洋近代の時間観念がアフリカ人の時間意識を通して相対化されている。このように、異なる文化との対比を通して、無意識に常識と考えられてきた事象についての見方を捉え直すことができる事例を取り上げ、六〇〇字以内で具体的に論じなさい。なお、取り上げる事例の時代や地域は問わない。

令和四年度 お茶の水女子大学

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題

文教育学部 人文科学科(地理環境学) 小論文

【問題3】以下の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

そんなグローバルタウンと化しているニセコだが、足元での家賃高騰は、「安いニッポン」基準で生活する地元住民の生活をじわりと圧迫している。

「高くて住めない」と出ていく若い町民がいる。

「高齢になると家を高く売つて便利な札幌に引っ越す人もいる」（50歳の地元男性）
物件だけではない。

「ハンバーガーセット2000円」

中心部の店のメニューはいずれも高く、スーパーに並ぶ「ウニ5万円」を見て驚く日本人観光客もいた。

都内のIT企業で働く男性（39）は2019年、海外拠点から来日した外国人の同僚を連れてニセコに旅行した。その時、居酒屋のラーメンが3000円だったことを覚えている。

「日本なのに高すぎる」

男性の年収は1100万円で、決して低くはない。

それでも「とてもたくさんは来られない」と思った。

だが、安いニッポンに慣れている日本人にとつては高いけれど、その価格は世界標準なのだととも言える。そこに、安いニッポンに慣れて生活することの落とし穴がある。

男性が宿泊したホテルのスタッフはみな日本人だが、客の多くは東南アジアの富裕層だったそうだ。ホテルのバーで、どんどん高級なシャンパンを頼む様子を見た。

その光景はまるで、数年前に自分が東南アジアのビーチリゾートにいた時のようだった。

ニセコには想像を超える外資マネーが舞い込み続ける。

しかし、外国人による固定資産税や旅行消費額など、町に入るお金は増えるものの、地元は手放しで喜べない現実もある。

不動産購入者は海外で暮らすため、物件の運用でもうけたお金は町内で使われない。

観光業の外国人従業員も、夏場は母国に帰つて給与を消費する。

「通年でみると、町に入るお金よりも町外の人方が手に入れるお金の方が多い」（ニセコ町企画環境課）。宿泊税の導入や通年で定住しやすい制度の整備など検討策も多い。

（つづく）

「世界のスノーリゾートに比べるとニセコは非常に安い。

利回りも良くて狙い撃ちされているので、まだまだ（外資系企業の）開発が来るだろう」日本経済新聞の「安いニッポン」連載で、ニセコを取り上げた回が掲載された2019年12月11日。

俱知安町議会で女性議員が、記事にあるデータを引用しながら「観光は最大化ではなく最適化を目指すと言われている。町としての指針が必要だ」とただした。

文字一志町長は「全国の観光地でもうけているのは民間のビジネスチャンスを得たところばかりで、深刻な自治体行政も多い。

そんな実態や環境と、国際リゾートや経済的な世界の動きと共存しながら、自分たちの暮らしぶりをどうよくするか考えていいきたい」と答弁した。

このまま買われ続けるニセコの将来はどうなっていくのか。

中心部を走っていた高齢のタクシー運転手はつぶやく。

「昔よりマシだ。今から英語も勉強できないけど、（外国人観光客が話す）地名さえ分かれば生計が成り立つ」

近年では長野県白馬村や沖縄県宮古島市などが、「ニセコ化」してきたと言われている。
① 海外マナーに踊ることなく、地域が成長していく青写真を描けるか。

この問いは近い将来、日本全体の課題としてのしかかる。

出典：中藤玲「安いニッポン」「価格」が示す停滞」日本経済新聞出版 2021年

問一 傍線部①はどういう意味か。本文を参考にしながら、二百字以内で述べなさい。

問二 傍線部②（2行にわたる）に述べられている課題や青写真をあなたはどう考えるか、六百字以内で自由に述べなさい。

前ページの地理環境学の入試問題は、引用文献の版元である株式会社日本経済新聞社の
使用許諾を得ております。

また、事前の許諾なく無断で複写・転載などの二次利用を固く禁じます。

令和四年度 桜美林大学 文教育学部

学校推薦型選抜 高大連携特別選抜 試験問題

言語文化学科(日本語・日本文学プログラム)

次の文章を読んで、後の問に答へよ。

今わたしの頭を去来するのは、昔話で語られるその「昔」とは、はたして本当に実在したのかという漠然とした疑念である。過去は実在するのか。これは時間をめぐる哲学的存在論で繰り返し提起されてきた、興味深い思考実験である。いま現在のこの瞬間、わたしはたしかに在る、と一應そう言える（もつとも、映画『マトリックス』のような世界観に立てばそれさえ疑問に付される）ことになるわけだ。わたしが見るもの、聞くもの、触れるものをはじめとするこの世界も在る。では過去のわたし、過去の世界はどうか。わたしが体験したあの旅、あの出会いは今となつてはもはやなく、それはただ記憶という心的現象として存在しているだけだ。そのとき撮つた写真、捨てずに取つておいたチケットの半券といった証拠物件や、その場に居合わせて体験を共にした人の証言などが、その旅、その出会いの事実性を補強しているかのようではある。しかしそれはたんに補強しているだけのことで、旅や出会いがたしかに在つたことを百分の一証明しているわけではない。

極端な話、ビッグバンから始まつて現在に至る歴史の痕跡をとどめたこの宇宙のことをいが、そこに棲まつている、物心ついた時点から現在に至る記憶をそなえたわたしとともに、ほんの五分前に創造された——と仮定してみたらどうか。素然性にきわめて乏しい仮定だが、いざそれを決定的に覆す客観的論拠を見出そうとしてもなかなか見出せないことに気づいて、人は愕然とするだろう。そのあたりの議論はたとえば哲学者の大森莊藏などがきわめて精緻に展開しているのだが、ここではその詳細に立ち入る要はない。今確認しておくべきは、わたしの過去はわたしの記憶という心象のうちにはしかないといふ一事に尽きる。

そして、心象でしかないといふ点に関するかぎり、それは眠つている間に見た夢の記憶とどう大して変わりはしないのだ。思い出と夢——前者はほぼ間違いなく確實に実在したものをめぐる心象であり、後者は完全に非実在のものをめぐる心象であるが、心象でしかないといふ点では両者は等価である。結局わたしたちは、昨日見た夢を目覚めの後に思い起すのとまったく同じように、かつて体験した過去を思い起こしているだけではないか。

やひひ」と言つながら、「これが老いといつもののがどう感慨に通じる」ともあるが、過去の体験も、それと現在とを隔てる歳月が長くなればなるほど当然ながらあちこち磨り減つて細部がぼやけ、模糊としたものとならざるをえず、そのぶん夢のなかでの体験との近似が強まつてゆく。長く生きれば生きるほど、過去はいよいよ夢つつのような何かと化してゆく。ただし、古い記憶ほど夢に似てくるかと言えば必ずしもそうではなく、老齢に至つて、現在時点からはじとも遠い幼少年期の出来事「そが逆に妙に鮮やかな現実感とともに甦つてくる」といた、遠近法の混乱、ないしその再構成があるのは、多くの人々の自伝などで語られている通りだ。夢のなかでいつも行くある特別な町、何か不思議な美しさに満ちたユートピアのような町があつて、そこへの旅を繰り返すことにその町の細部がますます鮮明になってゆく——よく出来た興味豊かな短編小説のプロットのよつた、そんな体験を物語ればいいのにと思うが、残念ながらそうした面白エピソードの持ち合わせはない。わたしが持ち合わせているのは、同じような場所の出てくる同じよつた趣向の夢を、何度も繰り返し見たことがあるという体験だけだ。反復によつて忘却の淵から辛うじて救われ、記憶のうちに残存して揺りぬきつけているいくつかの断片的な情景があるだけだ。

たとえばどうやらパリらしい町にわたしはいて、どこかへ行こうとしている。その町は地下鉄の代わりに高架線の乗り物の路線網が張りめぐらされており、わたしは街並みを上方から見下ろしながら空中を移動している。都市の交通機關というより、遊園地の上空にしつらえられたちやちな乗り物のようでもある。^(注2)どこの駅で、たぶんダンフェール＝ロシュロー駅で乗り換えるなければならないのだが、下界を見下ろしてあのあたりがななどとほんやり考えていたりちに、もうすでに乗り過へしてしまつたようだ。わたしは夕食をとるためにレストランを見つけようとしているらしく、困つたなと思っている。やや時間が経つて、と言つてもこれはまた別の機会に見た夢が混入しているのかもしれないが、わたしはいつの間にか乗り物から地上に降り立ち、高架線を支える鉄柱のたもとに立つていて。そこに妙にだだつ広いがらんとした広場で、あたりには人つ子一人いない。見上げると高架線のガード天井はわたしの頭上のはるかに高いところにあり、組まれた鉄骨の建築は壯麗な威容を示していて、何かしらエッフェル塔の真下にいるような気がしなくもない。結局、夕飯は食いつぱぐれるほかないのか。

人間が登場する夢——彼ら、彼女らと濃密な交渉が展開される、なまなましい愛憎の絡んだ夢も見ないわけではないのだが、町だの都市だのに関わる夢を思い出そうとしてみると、そこには広がっているのはいつも無人かそれに近いさびしい風景であるようだ。人々が往来していく

も、それは存在感がきわめて薄い、顔のない群衆でしかない。人間絡みのシーンはすぐ忘れてしまつ——忘れててしまいたいから、だらうか——というだけのことかもしれない。乗り物がよく出でるのは、町というものは必ず何がしかの空間の広がりを持つていて、その広がりを体感するのに乗り物が必要だからなのか。

さびしい気持ちになるとために、ただそのためだけに旅に出る。これはわたしにはきわめて自然な振る舞いと思われるが、それがどうじゅう」とかをいざ改めて説明しようとするに困惑やびるをえない。ただそうなのだ、それでも納得できなければ西脇順一郎の詩でも読んでみたらどうが、とでも言つ以外にどうやらないようだ。西脇は「さびしさ」という感情に、至純の詩の魂、至上の詩の価値を充填した詩人である。

窓に

うす明りのつぐ

人の世の淋しき

『旅人かへらず』〔二〕

影のない曼陀羅まんだらの

草の実の

紅の無常

紫の淋しさ

形のわびしさ

山々の枯れ枝にさがる

冬の日によぼれる (同「一一四」)

人の世の、また人の生の本質をなすのは「さびしさ」だと考えていたとおぼしい西脇に、わたくしは心の底から共感する。日々の生活のさなか、何やがや俗なよしなし」とこ追いまくられていれば、それに取り紛れて「さびしさ」など感じている暇はなかろうが、そんなときでも生の最深部の基層をなしているのは実は「さびしさ」にほかならない。たとえ昼夜の覚醒時には圧されて意識の表層にのぼらなくても、眠って見る夢のなかにそれはおのずと滲出していくだろう。

俗事に追いまくられるのに嫌気がさし、それから解き放たれたいと願うとき、人は旅に出る。

旅の途上で人は、いつの間にか凝り固まつてしまつていた決まりきつた観念や思い込みを脱ぎ捨て、心も軀も身軽になつて、自身の生のその基層まで降りてゆくだらう。そこへ滞留している「わびしさ」を、生のままの純粹状態でじかに体感するだらう。旅は、わたし自身の、そして世界それじたいの「わびしさ」に、無媒介的に向き合える得難い機会なのである。そんなとおり、「の仮初の生のただなか、わたしが仮初に通り過ぎる」となつた町は、「ひとゝとくさびしい町となるだらう。そればかりか、故郷の町、今現にそこへ定住している町や、え実は例外ではなく、その本質においてはやはりさびしい町以外のものではないと氣がへりとなるだらう。数十年間住みつゝと、知り合いや友だちができよつて、それもまた結局は通りすがりの町の一つでしかないので、わたしはたんにその町を、数時間、数日ではなく数十年かけて通り過ぎただけの「こと」なのだから。

わが国の古人は、「身に染む」という言葉を味わい深い詩語へと精錬し遂げてきた。「秋吹くはいがなる色の風なれば身にしむばかりあはれるなるらん」(和泉式部)。「野のひしを心に風のしむ身哉」(苗裔)。「わびしさ」が身に染まる。「わびしさ」を身に染めるほどの深さと鋭さににおいて感受する。それは「世に生を享けた」との意味が閃光のように開示される、恩寵の瞬間にほかならない。そうわたしは思う。

(松浦寿輝『わたしのが行つたさびしい町』による。一部改変した。)

注 1 『マトリックス』——仮想現実をテーマにしたアメリカの映画。一九九九年公開。

2 ダンフェール＝ロショロー駅——パリ南部にある駅。

問一 傍線「わびしさ」を身に染めるほど^のの深さと鋭さにおいて感受する。それは「世に生を享けた」との意味が閃光のように開示される、恩寵の瞬間にほかならない」とあるが、筆者が「こと」のように考える理由を説明せよ。

問一 筆者が述べる意味で「わびしさ」を表現した文学作品にどのようなものがあるか、日本の文学作品（時代は問わない）の中から本文中の例以外で具体的な例を複数示して五〇〇字程度で説明せよ。

(問題以上。答案用紙のみ提出のこと)

前ページの日本語・日本文学プログラム試験問題における引用文献の出典の版元は、『株式会社新潮社』になります。

令和四年度 お茶の水女子大学 文教育学部

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題
言語文化学科（中国語圏言語文化プログラム）

次の文章を読んで、後の問い合わせよ。

『実戦・世界言語紀行』（岩波新書）に記されているように、梅棹さんは、チベット語、モンゴル語、ペルシャ語、フランス語、スワヒリ語、スペイン語と、民族研究で訪れた先の言語をそのつど習得しようと努めた。外国语を学ぶことは母語をよく知ることでもある。彼は、言語をそうした網の目のなかで考えたに違いない。

さて、自分が使う道具をしつかり点検し、必要に応じて改良するという梅棹さんの態度は、言語についても適用された。なにしろ言語とは、民族学者にとって重要な道具であり、さらに論文という手段で研究結果を執筆・公開する学者にとって、最大の道具である。その道具を、もつと使い勝手のよいものにしようと考えるのは、当然のこと——と言いたくなるのだけれど、実際にはそれほど当然ではないようだ。日本語という言語そのものについて、「これで万全か？」と問い合わせすこと自体、むしろ珍しいことかもしれない。

よく知られているように、梅棹さんは、日本語表記についてローマ字を使おうと提唱し続けた。要するに、漢字表記を止めようではないかという次第。これは初めて聞くときよつとするかもしれない。しかし、明治この方、連續と議論され続けてきている大きな問題である。そう、大きな問題なのだ。

なぜ漢字を止めようというのか。梅棹さんの議論はさっぱりしている。より正しく、より平明に日本語を表記して、使い勝手がよく、さらには日本語を母語としない人びとも習得しやすくしようではないか、ということだ。なんなら子どもはもちろんのこと、大人、もつと言えば知識人と呼ばれる人たちに、少しまとまとまつた日本語の文章を音読させてみるといい。きちんと正しく読める者がどれだけいるだろうか。加えて、ワープロやパソコンの日本語入力が発展し、人びとはどうかすると自分では書けもせず、読めもない漢字を書いて平然としているではないか。それでは、意思疎通のための文章を書き、ことばを使うことはおぼつかない、というわけである。

一理ある。けれども、漢字を止めてローマ字にしてしまえという議論は、いかにも過激だ。私もこの点については、なかなか首肯できない。自分が習い使つてきた漢字かな混じり文というスタイルに、おそらく愛着を覚えているからだろう。しかし、梅棹さんは、「それは古代中国（漢語）かぶれやな」と容赦がない。そして返す刀で、「このまま行くと今度は英語かぶれやで」と斬る。要するに、日本語ローマ字表記化は、脱古代中国、脱英語帝国主義の方策もあるというのだ。

これについては、人によつていろいろ異論があると思う。私もあれこれ気になることがある。しかし、ここでもまた見誤りやすい

ことながら、見落としてはいけないことがある。例えば、「日本語の将来——ローマ字表記で国際化を」（NHKブックス）を読み、「と

んでもない！」と感じる人もあるだろう。しかし、そこで単に拒絶して終われば、いかにも詮無い。思考停止である。そうではなくて、ここは「ローマ字にするのはどうかと思うけれど、今の日本語表記は確かにまだ工夫の余地があるな。自分ならどうしようか」と考へを進める契機である。第一いろいろ言つても、パソコンやケータイでは、日本語をローマ字入力している人も少なくないだろう。

「現在および未来の日本文明を運転してゆくための道具」として日本語や言語を捉える」と。梅棹さんのローマ字文化という提言

に賛成するにせよ、反対するにせよ、この問題提起自体は、真剣に受け止める必要がある。

（山本貴光『投擲通信』による）

問一、漢字を使用することとのデメリットについて、「梅棹さん」はどうに考えていると思われるだろうか。自分の言葉でまとめて（100字以内）。

問二、傍線部「「ローマ字にするのはどうかと思うけれど、今の日本語表記は確かにまだ工夫の余地があるな。自分ならどうしようか」と考へを進める契機である。」とあるが、日本語の表記法にはどのような工夫の余地があるか、具体例を挙げて論じよ（六〇〇字以内）。

注：梅棹 忠夫（一九二〇年—一九九〇年）……日本の生態学者、民族学者、情報学者。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題

言語文化学科(英語圏言語文化プログラム)

次の設問に英語で答えなさい。答えは答案用紙に記入しなさい。

If you could start any kind of business, what kind of business would you start and what kind of products or services would you like to provide?

令和四年度 お茶の水女子大学 文教育学部

学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題

言語文化学科（仏語圏言語文化プログラム）

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

（アミン・マアルーフ著、小野正嗣訳『アイデンティティが人を殺す』による）

〔問一〕 傍線部の「矛盾した現実」とは何か、二百字以内で説明しなさい。

〔問二〕 文化の混淆について、あなたはどう思いますか。六百字以内で述べなさい。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部
学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題
人間社会科学科(教育科学プログラム)

《注意事項》

- 1 監督者の指示があるまで解答を開始しないこと。
- 2 試験問題は、この表紙を含めて3ページあります。
- 3 答案用紙は1枚あります。
- 4 試験問題および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の文章は、2000 年代以降に実施されている国際的な学力調査（PISA）で好成績を収めている各国の学校を訪問したイギリス人のある教師が日本を訪問した際に、教育の特徴について考えたことをまとめた文章の一部である。以下の文章を読み、下部の設問に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典：Lucy Crehan(2016) *CLEVERLANDS*, London : Unbound, pp.69-73 を一部改変

注：sternly：厳しく　detention：生徒に罰を課す　deliberate：熟慮された　strategy：戦略　prioritize：優先させる
berate：しかりつける　wayward：わがままな　implore：懇願する　naughty：品行の悪い　pernicious：有害な

問1：下線部（あ）（い）を和訳しなさい。

問2：下線部（1）で筆者が指摘する小学校と中学校の違いについて、本文全体を基にして日本語でまとめなさい。

問3：下線部（2）で筆者は日本の中学校における生徒集団の指導方法に賛同できないと述べている。あなたは筆者の立場に賛成か反対か。賛成、反対について自分の立場を明確にし、その理由を日本語で述べなさい。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部
学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題
人間社会科学科(子ども学プログラム)

《注意事項》

- 1 監督者の指示があるまで解答を開始しないこと。
- 2 試験問題は、この表紙を含めて2ページあります。
- 3 答案用紙は3枚あります。
- 4 試験問題および下書き用紙は持ち帰ること。

問題 以下の英文を読み、(1) ~ (3) に答えなさい。

答案用紙は小問ごとに分け、それぞれに解答する小問の番号を書くこと。

- (1) 実線部を日本語にしなさい。
- (2) 波線部のように、なぜ、*a death sentence* と言ったのか、説明しなさい。
- (3) 持続可能な社会に向けて、現代の子どもたちにどのようなことを経験したり学んだりしてほしいと考えるか。本文の内容に関連づけてあなたの考えを述べなさい。なお、子どもたちとはここでは 12 歳以下とする。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典：*The Guardian*, 14. Oct. 2021 より一部改変

注 *turmoil*：混乱、騒動、騒ぎ

dawdle：時間をかける、ゆっくり進む

ramification：結果、影響、成り行き、細分化、小区分、分派、分枝

wiggle：小刻みに動かす、上下に（左右に）振る、小刻みに動く、上下（左右）に揺れる

ostensibly：表向きには

increment：増大、増加、増加量、増額

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部
学校推薦型選抜 試験問題
芸術・表現行動学科(舞踊教育学専修プログラム)

I. 下記の文章を読み、設間に答えなさい。

高校のダンスの授業で、5分のダンス作品を8人で創作することになりました。そのクライマックスのシーンでは、10秒ほどのひとまとまりの動きを8人全員のユニゾンで2回繰り返すことが決まりました。練習が進み、皆がこの動きのカウントやフォルムを覚え、音楽に合わせて踊ることができるようになりましたが、作品のクライマックスにふさわしい強さが出ないという問題に直面しました。

- 1) この場合に考えられる原因を2つ挙げ、それぞれの解決策にふさわしい活動や作業について具体的な例を挙げながら説明しなさい。ここではひとまとまりの動きそのものは変更しないという条件で考えてください。(30点)
- 2) このプロセスを通して、8人は創作ダンスに限らない、他のスポーツや日々の生活に通じる学びを、どのように得ることが期待できるでしょうか。自分の考えを説明しなさい。(20点)

II. 次の英文の内容を読み、設間に答えなさい。

- 1) 下線部を日本語に訳しなさい。(20点)
- 2) IndustrializationとModernizationによってどのような変化が生じたかを本文の内容に即して述べなさい。(30点)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部
学校推薦型選抜 帰国子女・外国学校出身者特別選抜 高大連携特別選抜 試験問題
芸術・表現行動学科(音楽表現専修プログラム)

次の文章は、ニューグローヴ音楽辞典における「Sketch(スケッチ)」の項目の記述である。文章を読んで、下記の問い合わせに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

¹ serial works: 特定の音列(row)をもとに作曲された作品。アーノルト・シェーンベルク(1874–1951)の十二音技法による楽曲がその一例。

² leaf (plural leaves): a single thickness of paper, especially in a book with each side forming a page.

³ dismember: divide up

問1 下線部(1)を日本語に訳せ。

問2 下線部(2)に「The characteristics of the sketches themselves are also wide-ranging」とあるが、ベートーヴェンの場合、具体的にどのようなスケッチが存在するか？ 本文に即して解答しなさい。

問3 美術の場合、スケッチはそれ自体がしばしば芸術鑑賞の対象になりうる。このことは、多くの美術館において、実際に画家や彫刻家の手によるスケッチが展示されていることからも理解できるだろう。それに対して、音楽の場合、一般的な聴衆はもちろん、演奏家にとってさえ、スケッチそのものが芸術的価値をもつことは稀である。この違いの理由は何であると考えられるだろうか？ 「美術」と「音楽」という二つの異なる芸術形態のそれぞれの独自性についての考察を通して、この問い合わせに答えなさい。(400~500字)

出典:

Nicholas Marston, 'Sketch', *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, vol. 23, ed. by Stanley Sadie and John Tyrrell: Macmillan, 2001, p. 472.

問題作成のために、部分的に省略ないし体裁の変更を行った。

令和4年度 お茶の水女子大学 文教育学部
高大連携特別選抜 試験問題
人間社会学科(グローバル文化学プログラム)

経済のグローバル化の下で生じている格差の問題について、新型コロナウイルス感染症(Covid-19)の拡大に関連づけながら自由に論じてください。字数の制限はありません。
なお、記述は日本語でおこなってください。